

授業科目名	【G】 【H】	法学政治学演習Ⅰ・Ⅱ 法学政治学演習Ⅰ・Ⅱ	区分 選択必修	開講年次	【G】2 【H】2	単位数	【G】2 【H】2	
科目区分	専門科目							
授業形態	対面授業							
担当形態	単独							
施行規則に定める科目区分又は事項等								
サブタイトル	憲法上の基本的な論点を学ぶ				担当者	小林 伸一		
授業概要	【概要】	本演習で取り上げられ憲法上の論点はすべて、憲法解釈学の中で従来から基本的でかつ重要であると位置付けられています。このような論点について、通説的な学説(芦部信喜著・高橋和之補訂『憲法第八版』)に即し講述したうえで、受講生からの質問や意見に回答していきます。						
	【到達目標】	憲法上の基本的な論点に関する通説、判例を修得する。						
履修条件	憲法概論、行政法概論、法学入門の単位を取得し、なおかつ憲法(人権)・憲法(統治)を同時履修することが望ましい。							
アクティブラーニングの方法	【－】	事前学習型	【－】	反転授業	【－】	調査学習	【－】	フィールドワーク
	【－】	双方向アンケート	【－】	グループワーク	【－】	対話・議論型授業	【－】	ロールプレイ
	【－】	プレゼンテーション	【－】	模擬授業	【－】	PBL	【－】	その他
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP(ディプロマ・ポリシー)①	◎ (よく当てはまる)						
	DP(ディプロマ・ポリシー)②	◎ (よく当てはまる)						
	DP(ディプロマ・ポリシー)③	－ (当てはまらない)						
	DP(ディプロマ・ポリシー)④	－ (当てはまらない)						
他科目との関連性	本演習の受講にあたっては、法律学の基礎を理解したうえで、日本国憲法の内容を体系的に把握していることが望ましい。そのため上記の履修条件に掲げた科目のすべてが重要である。							
教科書	芦部信喜著『憲法第八版』(岩波書店 2023年)							
参考書	大林啓吾・手塚崇聡・小林祐紀編著『基礎演習ゼミ 憲法』(みらい 2024年) 2025年度版の六法							
評価方法	各論点ごとに、google classroom上に課題を提示する。課題に対する解答文の成績を基に評価する。							
フィードバック方法	各論点ごとに、質問や意見を受け付け、google classroom上で回答する。							
評価基準	本演習の趣旨・内容を十二分に理解し、そのことが課題に対する解答文に顕著に表れている受講生は、「S」または「A」とする。講義内容についての理解が必ずしも十分とはいえず、しかも解答の表現が的確とはいえない受講生は、その程度に応じて、「B」または「C」とする。講義内容に対する理解が明らかに不十分で、しかもそのことが解答の内容・表現に如実に表れている受講生は、その程度に応じて、「D」または「E」とする。正当な理由なく解答未提出の受講生は、「F」とする。							

授業	【G】 法学政治学演習 I・II	区 分	開講年次	【G】2	単位数	【G】2
科目名	【H】 法学政治学演習 I・II	選 択 必 修		【H】2		【H】2
授業内容	<p>私が以下の論点、項目について講述したうえ、受講生からの質問や意見に答えていく。本演習をこのように進めていくのは、アクティブラーニングの推進という観点からである。</p> <p>公共の福祉 プライバシー権 自己決定権 法の下での平等 表現の自由 財産権</p> <p>司法権の意義 違憲立法審査権の性格</p>					
予習内容	<p>演習前、各論点ごとに、指定教科書の該当頁を熟読する。また、関連する条文に目を通しておくことも必要である。予習は、各120分程度を目安としてください。</p>					
復習内容	<p>演習時、各論点ごとに、講述内容と質疑討議内容のノート採取が求められる。演習後、このノートの記述内容を確認する。復習は、各120分程度を目安としてください。</p>					
その他	<p>演習時には、教科書、六法、筆記用具を必ず持参すること。PCやスマートフォンの使用は、判例等の検索に限り許可する。</p> <p>※Gカリ:【 I は選択必修(A)・II は選択必修(B)】</p>					